

令和4年度 学校経営計画・学校評価				■4月5日提出 □10月3日提出 □3月15日			学校番号	11	高知農業高等学校	課程	全
高知県の教育の基本理念		(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	取組の方向性	①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働			学校関係者評価				
							【学力の向上】 評価 【 】				
目指すべき姿	学校像	①子どもたちの行きたい学校、保護者の行かせたい学校 ②子どもたちの夢や目標を達成できる学校 ③地域から愛され、信頼される学校	目指すべき姿を実現するための取組等	① 学力の向上及び進路保障 ② 「農」を学び、「農」で学ぶ ③ 新たな農業を学ぶ ④ 関係機関や地域との連携 ⑤ 部活動及び農業クラブ等の積極的な取組			【社会性の育成】 評価 【 】				
	生徒像	心豊かで、高い志を持って未来を切り拓いていける生徒					【チーム学校】 評価 【 】				

《重点項目:生徒に対する取組項目》 (評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標を概ね達成 C: やや不十分 D: 不十分

	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	【基礎学力の向上及び進路実現】 1 基礎学力の定着及び向上 ○基礎的・基本的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○主体的に学習に取り組む態度(学習習慣を含む) 2 進路指導の充実	【基礎学力の向上及び進路実現】 評価指標:「学力向上」肯定評価70%以上 1 基礎学力の定着 ＜基礎力診断テスト結果＞ 1年D3層1回⇒2回 国語:3.8%⇒1.3% 数学:14.2%⇒14.7% 英語:18.1%⇒21.4% 県目標の10%以下に届いていない。一方で国語のA・B層が増加している。また、英検の受験者数が年々増加し上級へのチャレンジ、合格生徒が増加している。(受験者数:R1:26人R2:46人R3:42人) 2 進路実現 ＜3年生進路実績＞ 就職:96%(公務員延べ10人)進学:98%(愛媛大学農学部、高知大学等国立大学に6名が合格)	【基礎学力の向上及び進路実現】 基礎学力及び家庭学習時間の定着に向けての取組の継続 ①観点別評価の導入に向け生徒への十分な説明を行う。(学習意欲や態度を高揚させる。) ②家庭学習時間向上への手立て(タブレットの活用) ・タブレットを活用した個に応じた課題の提示 ・タブレットを活用し自宅で取り組む課題や宿題の提示 ③キャリアパスポートを活用し、早期に進路目標を設定させる。 ④外部人材を活用した上位層の引き上げ				
社会性の育成	【社会的・職業的に必要な力の育成】 1 コミュニケーション能力の育成(かかわる力) 2 キャリアデザイン能力の育成(やりぬく力)	【生徒の社会的・職業的自立に必要な力の育成】 評価指標:「社会性の育成」肯定評価70%以上 ・コロナ禍のため、計画していた、体育祭、ふれあい市、修学旅行等大きな行事が中止となった。(ホームデー、高農フェスタ(校内)のみ実施) ⇒ホームデーでは、クラスや科の団結が強まり、高農フェスタでは、行事の運営方法等の学びがあった。 ・令和3年度学校評価アンケート結果⇒満足度:76.0%	【生徒の社会的・職業的自立に必要な力の育成】 ①新しい生活様式に沿った高農本来の行事の実施 ②コロナ禍での仲間づくりの活動を工夫し実施 ③地域の住民や大学や企業等との連携・協働(リモートの活用や企業とコラボした商品開発等) ④インターンシップ等の校外活動を通した社会性の育成				

	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
授業改善	【授業改善の取組の推進】 ①学校支援チームと連携し「授業改善」に取り組む。 ②新教育課程に対応した授業の実践 ③タブレットを活用した授業づくり ④観点別評価の推進(生徒・保護者への説明責任)	【全科で授業改善に取り組む】 評価指標:「学校評価アンケート」授業改善の項目肯定評価70%以上 ①学校支援チームと連携した公開授業を実施し他者評価を行った。(異教科の参観授業後、レポートの提出) ②新教育課程に対応したシラバスが完成した。 ③令和4年度から導入するタブレットの活用方法に関する研修及び研究が推進された。 ④観点別評価の研修を行い令和4年度実施に向けて各科で運用について方向性が決まった。	【授業改善の取組の推進】 ①学校支援チームと連携し「授業改善」に取り組む。 ②新教育課程に対応した授業の実践 ③タブレットを活用した授業づくり ④観点別評価の推進(生徒・保護者への説明責任) ⑤先進校の視察及び校内研修の充実				
生徒理解 生徒支援	【生徒指導・生徒支援の充実】 ①生徒支援体制の充実 ②生徒の活躍の場の設定	【生徒指導・生徒支援の充実】 評価指標:「学校評価アンケート」生徒理解・生徒支援の項目肯定評価70%以上 ①多様な生徒に対応した支援の体制が整った。 ・支援委員会の定期開催による情報の共有化 ・支援が必要な生徒へのチームでの支援ができた。 ② コロナ禍のため、校内外での生徒の活躍の場はが少なかったが、各種大会で優秀な成績を収めた。(農業クラブ全国大会優秀3名、高校生全国駅伝出場、高校生英語スピーチコンテスト1位等)	【生徒指導・生徒支援の充実】 ①面談の充実 ②多様化する生徒に応じた支援体制の更なる充実(安心して過ごせる学級づくり) ③コロナ禍における生徒の活躍する場の設定 ④高農三訓の更なる徹底				
学校の振興	【スマート農業の推進及び関連する知識・技術の習得】 ①農業関連機関との連携 ②ICT機器の効果的な活用に向けた知識・技術の習得	【次のステップの「新たな農業を学ぶ」に挑戦】 ＜新たな農業の学びが各科であった。＞ ①環境制御型ハウスで収穫したトマトの糖度や収量の増加 ②フランスのシバンヌ高校との姉妹校の締結の準備が進んだ。 ③高知大と連携し先進技術の学習が進んだ。 ④国家試験(測量士補)の合格者の増加(R2:3人R3:8人)	【スマート農業の推進及び関連する知識・技術の習得】 ①高知大学、農業大学校、林業大学校との連携 ②IoT塾への参加				
働き方改革	【コロナ禍での新たな働き方の推進】 働き方改革に継続して取り組む(生徒・教員ともにICTの活用)	【ICTを活用した働き方の推進】 ①Google G Suiteの活用に向けての準備が進んだ。 ②「すぐる」を使った緊急時や必要時等の情報提供が推進された。 ③GWの活用が定着した。	【コロナ禍での新たな働き方の推進】 働き方改革に継続して取り組む(生徒・教員ともにICTの活用) ①業務整理及び分掌業務の平準化 ②ICTの活用(保護者宛連絡文書、緊急時の伝達、アンケート、安否確認、欠席連絡、緊急時の連絡、安否確認等)				
産業教育の充実	【スマート農業の推進と関連する知識や技術の習得を目指し、農業の魅力、可能性を幅広く伝える。】 ①地域を支える人材の育成 ②地域のリーダーとなる人材の育成	【地域を支えるリーダーの育成】 ①GAPの維持認証(高評価) ②地域農家や食品製造会社と連携した商品開発やコラボ商品販売ができた。(こみべーカリー、高知アイス、こっくらんど、農家レストラン等) ③高知大学、農業大学校、林業大学校との連携が進んだ。	【スマート農業の推進と関連する知識や技術の習得を目指すし、農業の魅力、可能性を幅広く伝える。】 ①地元企業との連携の更なる推進 ②導入されるスマート農業関係機器の有効的な活用の推進				